

事前評価調書

I 事業概要																																																																
事業名	街路事業（現道拡幅）																																																															
地区名	東三河都市計画道路3・4・22号田原中央線																																																															
事業箇所	田原市田原町地内																																																															
事業のあらまし	<p>本路線は、田原市役所の前を東西に横断する幹線道路であり、豊橋鉄道渥美線三河田原駅の前を南北に縦断する田原駅前通り線と市の中心部で交差し、中心市街地の骨格を形成している主要な道路である。</p> <p>本区間は整備済み区間に挟まれた、車道・歩道とも狭小な170mの未整備区間であり、歩行者や自転車の通行が危険な状況となっている。また、小学校の通学路として指定されているだけでなく、市の交通安全プログラムや都市計画マスタープランにおいても整備が必要な路線として位置づけられている。</p> <p>本区間を整備する事で、交通の円滑化や安全な歩行者空間の確保と都市機能の向上を図るものである。</p>																																																															
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○歩行者等の安全性の向上</li> <li>○魅力ある市街地の形成</li> </ul>																																																															
事業費	事業費		内訳																																																													
	10.0億円		■工事費 1.0億円、■用補費 8.5億円、■その他 0.5億円																																																													
事業期間	採択予定年度	平成28年度	着工予定年度	平成28年度	完成予定年度	平成37年度																																																										
事業内容	現道拡幅 L=170m 幅員 W=16.0m																																																															
II 評価																																																																
①事業の必要性	1) 必要性	<p>前後区間は既に整備済みであるが、本区間は道路幅員が狭く歩道も狭小である。小学校の通学路にも指定されているため、交通の円滑化及び歩行者等の安全性の向上が必要である。</p> <p>また、田原市の街づくりにおいて、中心市街地の歩行者の回遊性向上を図っているため、連続した歩道の整備が必要である。</p>																																																														
	判定	A	<p>A： 現状の課題又は将来の予測から事業の必要性がある。</p> <p>B： 現状の課題又は将来の予測が十分把握されていない。</p> <p>【理由】</p> <p>小学校の通学路にも指定されていることから、交通の円滑化及び歩行者等の安全性の向上が必要なため。</p>																																																													
②事業の実効性	1) 事業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>H32</th> <th>H33</th> <th>H34</th> <th>H35</th> <th>H36</th> <th>H37</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">工種区分</td> <td>調査・設計</td> <td colspan="2">←→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>用地・補償</td> <td></td> <td></td> <td>←→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>工事</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>←→</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業費(億円)</td> <td>0.2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>9.8</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	工種区分	調査・設計	←→										用地・補償			←→								工事								←→			事業費(億円)		0.2							9.8		
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37																																																				
工種区分	調査・設計	←→																																																														
	用地・補償			←→																																																												
	工事								←→																																																							
事業費(億円)		0.2							9.8																																																							
2) 地元の合意形成	<p>事業に先立ち近隣の住民へ事業説明を行い、特段の反対意見も無く、地元の合意形成を図れている。</p>																																																															

判定	A	A： 事業計画の実効性が期待できる。 B： 事業計画の実効性が期待できない。
	【理由】円滑な事業執行環境が整っており、事業の実行性が期待できる。	
Ⅲ 対応方針		
妥当である	事業実施が妥当である。： 上記①及び②の評価がすべてA判定であるもの。 事業実施は妥当でない。： 上記以外のもの。	
Ⅳ 事後評価実施の有無と主な評価内容		
<p>■対象（事業完了後5年目） <input type="checkbox"/>対象外</p> <p>【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】</p> <p>—</p> <p>【主な評価内容】</p> <p>工事実施前後の歩行者等通行の安全性に関する地元の満足度（アンケート）</p> <p>歩道整備による歩行者数の変化（通行量）</p>		